

令和 7 年度

学校自己評価表（計画）

学 校 運 営 計 画				
学 校 運 営 方 針		100年の歴史と伝統にふさわしい学校 ・確かな学力と課題を発見・解決していく力を身に付け、自らの生き方や社会の在り方を探究することによって地域に貢献する人材を育成する。 ・校是・校訓の「誠実」を体現するとともに、自分のよさと社会の多様性を認め、個人の尊厳に基づいた人間関係を築いていくことができる力を育成する。		
三つの方針(スクール・ポリシー)				
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)		①基本的な生活習慣を確立させ基礎学力の定着及び学力の向上を図るとともに、地域と連携し、体験学習等をととして社会で自律できる能力を育成します。 ②誠実さを持ち他者を理解できる人間性と、生徒同士で互いの個性や多様性を認めあう関係を構築できる能力を育成します。 ③自己の生き方を見つめ進路実現に真摯に取り組み、地域や社会の課題を見つけ、主体的に解決策を探究する力を育成します。		
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)		①積極的にICTを活用し確かな学力を身に付け、主体的に進路選択ができるよう生徒を支援します。 ②学校行事(体育祭、加茂高祭、人権教育講演会等)をととして、他者理解や人権意識の醸成を図ります。 ③地域との連携を進め「総合的な探究の時間」等を中心に、課題解決に向けた探究学習や自己の進路を見据えたキャリア教育に取り組み、その成果をととして地域に貢献します。		
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)		①日々の活動に意欲的・積極的に取り組む生徒 ②自尊感情をもつと同時に、他者を大切にする豊かな心をもつ生徒 ③未来を志向する創造性豊かな生徒		
昨年度の成果と課題		年度の重点目標	具体的目標	
体育祭、文化祭などの行事を従来の形に戻して実施することができた。 放課後講習や個別指導により、生徒の進路目標が概ね達成された。 アントレプレナーシップ教育の研究指定校として、地域に根ざした探究活動を行うことができた。 今年度は、生徒の多様な進路希望をふまえた、生徒が主体的に活動する取り組みのさらなる充実を図る。		基礎学力の定着 学習意欲の向上 進路指導の充実 ・大学進学希望者、成績上位者の一層の学力向上	① ICTを活用した授業改善を図る。 ② 学習習慣を身に付けさせる工夫をする。 ③ 生徒の進路目標達成に向けて、進路指導部と学年で組織的に取り組む。 ④ 大学進学希望者への指導を工夫する。	
		・基本的生活習慣の確立のための支援と指導 ・自他を認め合い高め合う生徒の育成を図る ・地域から信頼され、愛される生徒の育成	① 情報モラル教育の充実 ② 人権意識の醸成を図りいじめの起こりにくい、いじめを許さない学校づくり ③ 生徒が安心、安全な学校生活を送れるよう支援と指導を行う。	
		・部活動加入率の向上をはかる ・社会貢献意識の養成 ・地域に開かれた学校づくり	① 信頼される学校づくりのため、地域・保護者との連携を深め、学校の教育活動の積極的な発信を行う。 ② 学校行事や部活動を通して豊かな人間性と社会性を育む。 ③ アントレプレナーシップ事業において地域との連携を深める。	
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価
教育活動の充実	授業時間の有効活用を図る	授業時数のバランスを整える。		
		授業時間を確保し、年間計画を適切に作成する。 カリキュラムを円滑に運用する。		
読書の環境整備と	図書館利用の促進	職員の要望を積極的に取り入れ、図書資料を充実させる。		
		図書館だより等を発行し、新刊図書の情報提供や図書館企画の紹介等PRに努		

P T Aとの連携 (総務)		める。			
	P T A広報誌を発行する	保護者と協力し、広報誌「一志川」を発行する。			
	学習環境を整える	花壇整備等を行う。 加茂高祭でP T A企画を実施する。			
お互いの個性や多様性を認め合い、安心して学校生活を送れるような環境作り (生徒指導)	身だしなみ指導	頭髮や服装を整える意味を生徒と確認し合いながら、丁寧に指導をおこなう。各種指導の際は担任を通し、保護者と連携して指導を行う。			
	交通安全指導	街頭指導や下校指導、自転車・バイク通学生対象の実技講習会を実施し、交通マナーの向上を図る。			
	遅刻防止に努める	定期的に遅刻指導を行う。 遅刻が多い生徒には個別に指導を行う。			
	生活指導委員会	定期的な自転車の施錠点検、挨拶運動などを行う。			
	自主的自治的能力の育成	生徒の主体的な運営により、体育祭・文化祭・スポーツ大会などの学校行事を充実させる。			
進路実現のための環境整備 (進路指導)	進路決定に必要な能力を引き出し、適正な勤労観・職業観を育む(1年)	進路意識の高揚を図り、自らの進路について早期から主体的に考える姿勢を養うため、外部組織と連携した講座、講演会等を企画・運営する。 基礎学力の定着を図るため、補習や模擬試験を企画する。 「学年便り」などにより、進路情報を提供する。			
	進路意識の一層の啓発を図り、基礎力の定着と応用力を養う。(2年)	さらなる進路意識の高揚を図り、自らの進路の目標を明確にさせるため、外部組織と連携した講座、講演会等を企画・運営する。 基礎学力・応用力を養うため、進路別補習及び模擬試験を企画する。 「学年便り」などにより、進路情報を提供する。			
	個に応じた支援により進路希望を達成する。(3年)	実践力を養うため、進路別の補習及び模擬試験を企画する。 多様な試験方式への対応力を養うため、面接・小論文指導などを企画する。 「学年便り」などにより、進路情報を提供する。			
健康な心身の育成と保健美化 (保健)	充実した高校生活を送るために、心身両面から支援する	身体計測や各種検診を実施し、生徒の健康状態を適切に把握する。 心身の健康問題の早期発見、早期対応に向け、健康相談、健康観察の充実を図る。 保健だよりや掲示物、日常の指導により生活習慣の重要性を理解させ、健康に対する意識を高める。			
	学校環境を整える	屋内外の校内美化について、全校で取り組む体制を整える。 学校環境衛生検査(定期・日常)を実施し、生徒の学習環境を整える。			
	保健整美委員会の活動を推進する	全校生徒に働きかけ、ゴミの分別や捨て方についての意識向上を図る。 健康に対する意識を高めるために、PR活動を推進する。			
情報機器の整備と活用 (ICT)	情報機材の整備	ICT機器の日常的な保守点検を中心に、周辺機器やアプリケーションソフトの充実に努める。			
	ICTの整備	ICTを利用できる環境を整備し、授業等で活用できるようにする。			
基礎学力の定着と進路意識の啓発 (1学年)	学習活動の充実	高校での学びを自己の生き方・あり方、社会と結びつけたものとするよう努める。 学習習慣の定着を図り、基礎学力の定着を図る。			
	自己の生き方・あり方や進路に関する探究活動の充実	学習活動において主体的に学ぶ力の育成を図る。 学習や諸活動を通して自己の生き方、あり方や進路意識を育む			

基礎学力の充実と進路目標の設定 (2学年)	基本的生活習慣の確立・向上	家庭と連携・協力し、規律ある生活態度及び習慣を身につけさせ、定着を図る。			
	基礎学力の向上と応用力の育成	継続して予習・復習・補習指導の充実とともに、課題等を通して学力の更なる向上を目指す。			
	進路目標の明確化	模擬試験等の準備学習や実施後の振り返りをもとに、課題の確認、学習相談を充実させる。			
		各種講演会等を通して、自己理解を深め、進路目標を明確にさせる。			
学力の充実と進路実現 (3学年)	最高学年としての責任感と自覚を持ち、自律的に行動する生徒の育成	家庭と連携・協力し、規律ある生活態度及び習慣を身につけさせる。			
		学校行事を通してコミュニケーション能力・リーダーシップの伸長を図る。			
		各自で情報を収集し管理する姿勢を促す。			
	学力の充実と個々の進路目標の実現	補習や添削課題を効果的に実施し、学力の定着を図る。			
		模擬試験等の分析結果をもとにして課題を確認し、学習相談等を充実させる。			
教科指導の充実 (国語)	調和のとれた豊かな人間性の育成	各種講演会等を通して、社会の一員としての自覚と調和のとれた豊かな人間形成を図る。			
	わかりやすい授業の実施	年間授業計画表の作成・配付、授業進度・内容の検討等を通して、取り組みやすく、わかりやすい授業を行う。			
教科指導の充実 (地歴・公民)	進路実現に向けた基礎学力の定着・充実	漢字・古典文法等の小テストを計画的に実施し、理解と定着を図る。			
		平常時および長期休業中に補習等を実施し、学力の定着・向上を図る。			
	ICT機器を活用し、生徒が分かりやすい授業の実施	個々の進路に対応した文章指導を行い、文章表現力の向上を図る。			
教科指導の充実 (数学)	ICT機器を活用し、生徒が分かりやすい授業の実施	教材研究を深め、内容を精選する。ICT機器を適宜利用する。			
		Googleクラスルーム等を利用し、生徒が主体的に学ぶ場を提供する。授業内容に合わせて地域の課題や時事問題を適宜とりあげる。			
	分かりやすい授業の実施	職員間の情報交換、教材検討を行う。			
		個々の進路に対応した教科指導を必要に応じて行う。			
教科指導の充実 (理科)	基礎学力の向上を図る	授業進度、考查範囲を教員間で打合せながら授業を進める。			
		教科書傍用の問題集等を提出課題とする。			
	大学合格のための応用力・実践力の養成	夏季補習を実施する。			
		個人指導を実施する。			
教科指導の充実 (体育) (保健)	分かりやすい授業の実施	大学入学共通テスト対策を充実させる。			
	基礎学力の向上	演示実験や生徒実験を工夫して行うとともに、科学的なリテラシーを養う。			
		反復練習をすることで基礎学力の定着を図る。			
教科指導の充実 (体育) (保健)	豊かな自然観の育成	視聴覚教材を利用し、科学的な自然観を育てる。			
	基礎体力の向上	3年間を通して、ラジオ体操、筋力トレーニング、長距離走を継続して実施する。			
教科指導の充実 (体育) (保健)	運動への興味・関心を高める	1、2年次では、多種目に触れさせ、運動を進めるための諸条件を十分に理解させる。3年次には自ら選んだ種目について、学習計画を立て、実践できるようにする。			
	集団行動での態度の育成	集団におけるルールを理解させ、授業に臨む姿勢や、服装・行動等について指導する。			
教科指導の充実 (体育) (保健)	健康・安全について理解を深める	健康についての考え方の変化を理解させ、生活習慣病や喫煙・飲酒・薬物乱用など様々な健康課題に対して、適切に意思決定・行動選択ができる姿勢を身につけさせる。			
	健康・安全について理解を深める				

	健康を管理、改善する資質や能力を育てる	生涯の様々な段階における健康の課題に対して、適切に対処できる知識を学ばせ、生涯にわたる保健・医療活動を適切に活用できる知識を身につけさせる。			
教科指導の充実 (芸術)	基本的な知識・技術の向上	実技と理論を関連付けて学ばせ、基本的な知識と技術の向上を図る。			
	創造力の育成	興味・関心を喚起する授業に努め、生徒が自ら工夫し、主体的に活動する意欲を育てる。			
		添削指導や鑑賞指導を充実させ、表現意欲を高め、創造力を育む。			
教科指導の充実 (英語)	分かりやすい授業の創造	教材の研究や工夫を協力して行い、授業進度、評価方法について、科内での話し合いを密にしながら授業を進める。			
	基礎学力の定着・充実	単語、文法、音読、リスニング、速読テスト、パフォーマンステスト等を実施し、基礎学力の定着を図る。家庭学習に有効な課題を与える。生徒の能力に合った個別指導の機会を確保する。			
		英語検定や英語セミナー等を積極的に勧める。			
	進路希望実現	休業中の補習だけでなく、放課後の進学補習を充実させる。			
教科指導の充実 (家庭科)	分かりやすい授業の実施	教材研究を進め、内容を精選する。ICT機器を適宜利用し、生活情報を収集する力を養う。 Googleクラスルーム等を利用し、生徒が主体的に学ぶ場を提供する。 授業内容に合わせて地域の課題や時事問題を適宜とりあげる。			
	生活を主体的に営む態度の育成	生活の充実向上を図り、主体的に創造する資質・能力を育成する。			
	生活を営むために必要な知識の理解と技能の習得	生活に係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して課題を解決する力を養う。			
教科指導の充実 (情報)	基礎学力の定着・充実	反復練習することで、情報社会で生きるために必要な能力を習得させる。			
	情報社会において必要な技能を身につけさせる	実習を通して、表計算等のソフトウェアの基本操作を指導する。			
		ホームページ作成とプログラミング実習を通して、今後必要となる知識・技能を身につけさせる。			
人権教育 同和教育 の推進	研修の充実	全校生徒対象の講演会を実施する。			
		各種研修会への参加の呼びかけを行う。			
	授業実践の充実	全校生徒対象の講演会における事前、事後の指導を行う。 研修の成果を生徒の学習、授業実践に反映させる。			
アントレプレナーシップ教育の推進	情報収集力・分析力、リーダーシップやコミュニケーションスキル等の起業家的資質・能力のスキルアップを図り、探究心などの起業家的精神を養成する。	自身の興味・関心を理解するために外部組織と連携した講座、講演会等の企画・運営を行う。（1学年）			
		学問・職業分野ごとに探究活動に取り組み、自身のキャリア形成を考えさせる。（1学年）			
		加茂市の企業をPRする動画を作成する。（2学年）			
		加茂市の企業の課題について探究・発表する。（2学年）			
成果		地域課題と自身の進路を結びつけ、加茂市の課題解決のために、自身ができることを考え、発表する。（3学年）			
			総合評価		